

# 競技とつらからキャラクターダンス

## 学

ラン姿の応援団長の後ろで、ボンボンをもって踊る。かつて「応援する人の一部」だったチアガールは、魅せるスポーツとして成熟し、「チアリーディング」と呼ばれるようになりました。香川大学にも、2005年からチアリーディング部が誕生しています。

部長は、部が誕生した時から在籍している教育学部3年の濱垣善恵さん。「部が生まれたのは四国アイランドリーグが始まったことがきっかけです。他の大学でチアリーディングをやっていた方が大学院にいて、その方がオリーブガイナースを盛り上げようということでチアリーディング部を創設したんです」。しかし創設されたばかりの部に集まってきたのは、濱垣さんをふくめ初心者ばかり。それでも、本格的なチアの経験を持っているコーチの指導のもと、応援団ではなく運動部としてスタートしました。競技としてのチアの特徴は、「スタンツ」という組み立て体操のような技が組み込まれていること。他人の体を持ち上げたり、大きくジャンプしたりなどハードな動きが多いため、「筋トレは欠かせない」そうです。その上で「魅せる」動きも必要。キレイく体を動かして、ピタリと動きを止める。みんなが息を合わせないと美しい演技になりません。「週2回、火曜日と土曜日に3時間ずつ練習しています。でも私たちはみんな大学生からはじめた人間ばかり。やっているうちに体も

柔らかくなるし、誰でもできるスポーツですよ」と濱垣さんは自分の体験をもって語ります。最大の悩みは部員不足。現在8名が所属していますが、演技をするためには最低10人は欲しいとか。部長の責任として、来年の新入生確保に燃えています。

さて、少人数のため大会に出場できないチアリーディング部ですが、部活としての活躍の場は意外に多いそうです。前述のオリーブガイナースの応援もありますし、まつりに参加したり、小学校の運動会に招待されることもあります。「チアリーディングは自由度がとて高いんです。音楽もダンスも変えられるので、例えば子ども知っている音楽と簡単な動きにすれば、一緒に踊ることができるとですよ」。また、時には企業からイベントへの出演依頼もあるそうで、「大学生の時に企業の方と交渉するなんて、なかなかできないことですよ。こういう経験ができることもこの部活のメリットですね」。学校の中より外での活動が多い、地域に愛されているチアリーディング部なのです。

濱垣さんは「確かに多くの人の前で演技するスポーツですが、それだけに度胸もつきます。私は普段どんな人を相手にしても怖くなくなりました。恥ずかしいのは最初だけで、やっていると絶対楽しくなりますから！」と力説します。めざすは「10人以上の部員確保！」です。



香川大学チアリーディング部



Kagawa University Chorus

# 香川大学合唱団

香

川大学合唱団は、設立51年目の文化系サークル。現在は55人の香大生が所属し、コンクール出場や慰問公演を精力的に行っています。

「高校時代から合唱部に所属していたメンバーはそれほど多くないんです」と工学部3年で団長の遠藤英喜さん。高校の頃から合唱に関わっていた遠藤さんも、大学で合唱団に入るとのつもりはなかったそう。しかし先輩に誘われて新歓期の企画に参加する中で、合唱団の雰囲気や人柄の良さ、楽しさに惹かれて入団を決意しました。

同じように、高校ではソフトテニス部に所属していた情宣担当・教育学部3年の児嶋明子さんも、合唱団の和気あいあいとした雰囲気が入団の決め手になったといいます。

「合唱と聞くと大人しいイメージかもしれませんが、みんなテンションが高く、騒がしくらい元気なんです！」

しかし、和やかだけれどしっかり礼儀を守るのも合唱団のいいところ。というのも、活動は団内部の先輩後輩関係にとどまらず、学外活動も学生主導。いつもは自主練習が中心ですが、ボイストレーナーの指導を受けに出かけたりとその内容は本格的で社会人と触れ合う機会も多いのです。自然と言葉遣いやふるまいの大切さを感じる場面も増えることに。緊張するけれど、自分を磨くいい機会と団員は考えています。

「OBの方々との交歓会も、みんな楽しみにしているイベント

なんです。先輩の話がうかがったり今の合唱団の話などをするのが、現役にはとてもいい刺激になっています。二次会は毎年カラオケって決まっているんですよ（笑）」と児嶋さん。

また、合唱には体力も必要なためか、メンバーには運動好きが多いのだそうです。みんなでテニスをしたり、合宿でバスケットをしたり、時には合唱団内で運動会を開催することも。企画・実行がすぐに行えるチームワークのよさも、素晴らしいハーモニーを生み出す秘訣なのかもしれません。

活動は3年生を中心に行われていますが、毎年12月に香川県民ホールのアクトホールで行う定期演奏会が終わると2年生が合唱団を引っばっていくことになります。11月現在、合唱団は第51回の定期演奏会に向けた練習の真っ最中。

「定期演奏会は合唱団にとって、そして3年生にとっての総仕上げとなります。先生方の指導のもと、どれだけ上達してきたか。また、自分たちが培ってきた絆を見ていただきたいと思います」と遠藤さん。

「みんながそれぞれ出来ることを考えて動いてくれるので、僕はそこに居るだけです」とメンバーを信頼する団長と、「団長がいるから私たちは安心感をもって活動できるんです」という児嶋さんたち。合唱団の仲のよさ、そして結束の強さがうかがえました。